

地方創生推進交付金 令和元年度実施事業<内訳>

資料3-2

事業名	R1実績額(千円)		事業の概要
	事業費総額	交付金充当額	
はこだて環流プロジェクト	15,500	7,574	
函館TOM向上推進事業	133	67	[概要]小学生向けオリジナル映像の普及促進を図るため、小学校教員向けの講習会や小学生、保護者をはじめ、広く市民を対象とした市民講座を開催し、函館のまちへの理解を深め、まちに対する誇りや地域愛を醸成することで、函館の未来をつくる人材を育成する函館TOM向上推進事業への理解促進を図る。 ○映像上映・パネル展開催(①11/23, ②1/23~28)
小学生向けワークショップの開催	73	36	[概要]ワークショップを通じて、まちの魅力を再発見し、次世代へ継承できる人材を育てる。 ○「ワークショップ〜クイズで学ぼう函館〜」開催 ・10/18~20 映像上映・パネル展開催(うち、10/20にクイズ開催)
移住検討者向けセミナーの開催	369	127	[概要]都内において函館への移住検討者を対象に函館での生活や仕事などを紹介するセミナーを開催する。 ○「はこだて暮らし〜移住者の本音のハナシ」開催(10/5開催)
IJUターン推進事業	1,657	710	[概要]若年層の首都圏等への転出などにより、市内企業においては、労働力人口の減少や人材不足の拡大が顕在化しているため、就職ポータルサイトにより、市内企業の紹介や求人情報を発信し、IJUターンによる人材確保の支援を行う。 ○令和元年度事業実績 ・有効求職者数:150人, 有効求人数:190人(61社,76件), 就職決定者数:7人
しごとフェスタ開催事業	1,080	540	[概要]就職や進学により首都圏等へ転出した新規学卒者は、就職や転職などの転機において、地元企業を知らないという理由から、Uターン就職に繋がらない傾向にあるため、高校1,2年生を対象に地元企業との接点を持つイベントを開催する。 ○令和元年度実績 ・開催日:令和元年9月10日(火) ・場所:函館アリーナ ・来場者:高校生(教員含む) 1,326名, 教育および企業関係者 41名, 総来場者 1,367名 ・体験型コーナー出展者数 企業15社、学校3校 ・個別相談コーナー出展校数 53校(大学・短大・専門学校)
IT技術者人材育成支援補助金	5,811	2,906	[概要]雇用の増加等を条件に人材育成を行う立地IT企業が、社員に対し実施する研修費用の助成を行うことで、市内IT産業の高度化および雇用機会の創出を図る。(常用雇用の増加人数等の条件に応じて、1社あたり500万円を上限に助成) ○交付対象:函館市に企業立地を行う者が、事業の実施に伴い新たに雇用する正規労働者等に封して行う研修等 ○助成上限額:常用雇用の1人あたり30万円・1社あたり単年度で500万円(最大5年間) ○直近の実績:(平成29年度)3件, 助成額 6,306千円 (平成30年度)2件, 助成額 5,508千円 (令和元年度)3件, 助成額 6,078千円
未来のIT人材育成推進事業	4,888	2,444	[概要]IT企業の集積による若者の雇用創出を目指し、首都圏IT企業の誘致や地元IT産業の振興に取り組んでいることから、市内の高等教育機関の学生やIT企業の社員が講師となり、小学生から高校生を対象にmonacaやScratch等を使用したプログラミング教室等を行うことで、将来的にIT技術者をめざす層の拡大を図る。 ○プログラミング教室:(開催回数)全12回,(参加者数)延べ390名 ○プログラミングの基本を学ぶワークショップ特別体験会:(開催日)令和元年12月15日,(会場)はこだてみらい館シアター,(参加者数)19名 ○U-16プログラミングコンテスト:(開催日)令和元年10月19日,(会場)函館市中央図書館,(参加者数)64名
ふるさと回帰支援センターへのブース設置	1,489	744	[概要]JR有楽町駅前の東京交通会館にあるふるさと回帰支援センター内に本市のブースを設置し、移住検討者向けのパンフレットなどの情報を展示するとともに、相談員が移住相談に対応するなど、首都圏の移住検討者へ向けた情報発信を図る。